

## 6 世帯属性別指数及び品目特性別指数の動き

### (1) 世帯主の年齢階級別指数

世帯主の年齢階級別の総合指数について前年比をみると、教養娯楽の下落幅の大きかった「29歳以下」の年齢階級で下落となったものの、それ以外の各年齢階級では上昇となった。上昇幅が最も大きいのは「60～69歳」及び「70歳以上」の年齢階級で、0.4%の上昇となった。これは、食料のウエイトが高いことなどによる。

10大費目別にみると、食料、光熱・水道、被服及び履物、教育及び諸雑費はすべての年齢階級で上昇、家具・家事用品、保健医療及び教養娯楽はすべての年齢階級で下落となった。携帯電話通信料などの通信の価格が下落し、ガソリンなどの自動車等関係費の価格が上昇した交通・通信は「29歳以下」以外の各年齢階級では上昇となった。また、教養娯楽用耐久財の価格が大幅に下落している教養娯楽で年齢階級間の差が最も大きくなっており、下落幅の最も大きい「29歳以下」の年齢階級で3.4%の下落、下落幅の最も小さい「70歳以上」の年齢階級では1.0%の下落となった。（表25）

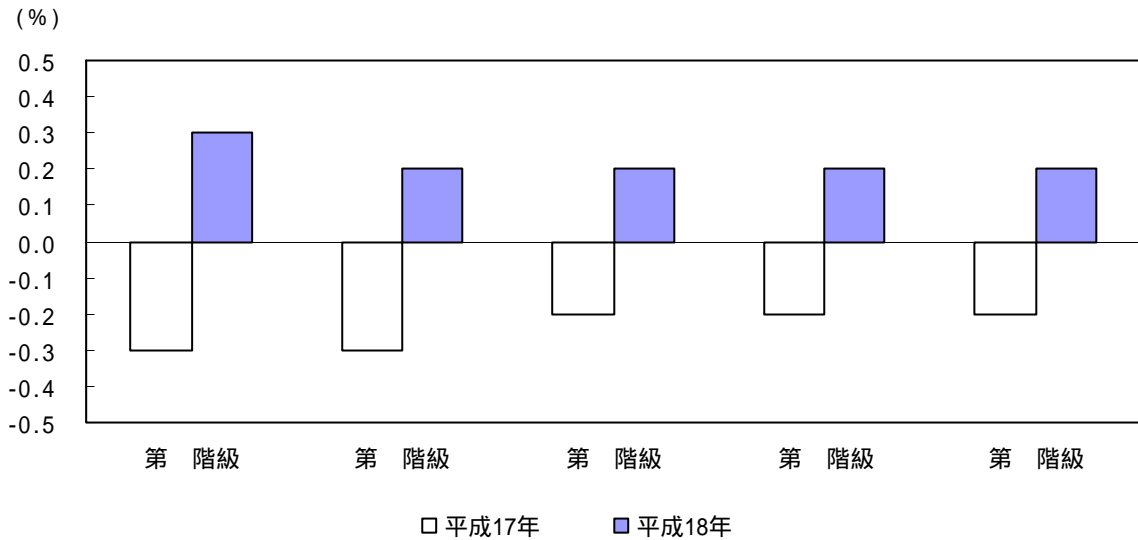
表25 世帯主の年齢階級，10大費目別の前年比

年齢階級	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平均	0.3	0.5	0.0	3.6	-2.1	0.8	-0.6	0.4	0.7	-1.5	0.9
29歳以下	-0.1	0.2	-0.1	3.4	-1.9	0.7	-0.2	-0.1	0.7	-3.4	0.7
30～39歳	0.1	0.3	-0.1	3.2	-1.9	0.6	-0.5	0.1	0.6	-1.7	0.4
40～49歳	0.1	0.3	0.0	3.5	-2.1	0.7	-0.6	0.1	0.7	-1.7	0.6
50～59歳	0.3	0.5	0.0	3.7	-2.3	0.9	-0.6	0.3	0.7	-1.7	1.1
60～69歳	0.4	0.6	0.0	3.8	-2.0	0.9	-0.7	0.8	0.6	-1.2	1.2
70歳以上	0.4	0.7	0.0	3.8	-2.3	0.9	-0.6	0.7	0.7	-1.0	1.0

(2) 勤労者世帯年間収入五分位階級別指数

勤労者世帯の年間収入五分位階級別の総合指数について前年比をみると、第 階級で0.3%の上昇、それ以外の各階級では0.2%の上昇とすべての階級において下落から上昇に転じた。(図23)

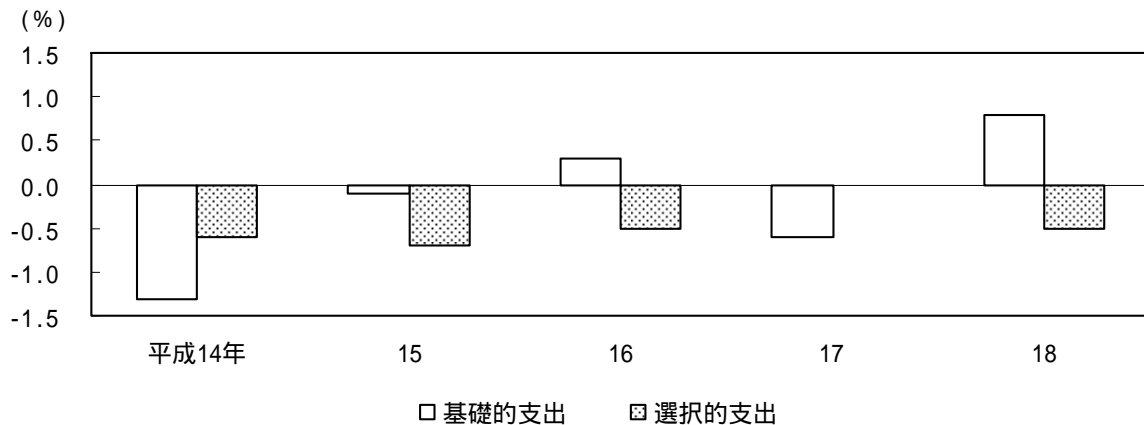
図23 勤労者世帯年間収入五分位階級別前年比



(3) 基礎的・選択的支出項目別指数

基礎的・選択的支出項目別の指数について前年比をみると、基礎的支出項目は0.8%の上昇となったのに対し、選択的支出項目は0.5%の下落となった。また、平成17年と比べると、18年は、基礎的支出項目が下落から上昇(1.4ポイント)に転じたのに対し、選択的支出項目は同水準から下落となった(0.5ポイント)。(図24)

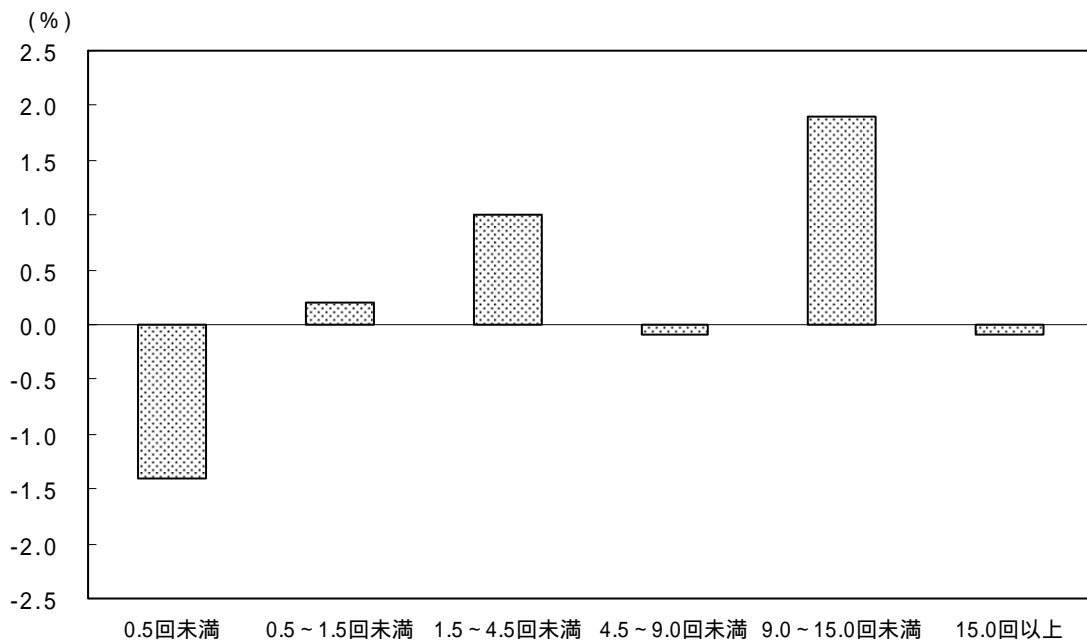
図24 基礎的・選択的支出項目別前年比



#### (4) 品目の年間購入頻度階級別指数

品目の年間購入頻度階級別の指数について前年比をみると、ガソリンやたばこなどが含まれる「9.0～15.0回未満(月1回程度購入する品目)」が1.9%の上昇と、最も上昇幅が大きくなった。このほか、灯油などが含まれる「1.5～4.5回未満(年2～4回程度購入する品目)」が1.0%の上昇となった。一方、家庭用耐久財や教養娯楽用耐久財に該当する品目が含まれる「0.5回未満(まれに購入する品目)」は1.4%の下落となった。(図25)

図25 品目の年間購入頻度階級別前年比



#### 世帯属性別指数及び品目特性別指数について

消費者物価指数は、消費者全体に及ぼす物価変動を測定しているが、子どもがいる世帯・いない世帯、持家の世帯・借家の世帯などの世帯の属性や、頻繁に購入する品目・まれに購入する品目などの品目の特性により、個々の世帯に及ぼす物価変動はそれぞれ異なる。そのため、基本分類指数や財・サービス分類指数のほかに、世帯属性別指数と品目特性別指数を作成し、分析に供している。

世帯属性別指数は、世帯の収入、住居の所有関係や世帯主の年齢などの世帯属性別の消費構造に基づいて作成している。世帯属性別指数の算出に当たっては、価格は小売物価統計調査(総務省統計局実施)から得られる全国平均の品目別価格をすべての世帯属性区分に共通に用い、ウエイトは家計調査(総務省統計局実施)の結果から世帯属性区分ごとに作成したものをを用いているため、世帯属性別に計算された指数の差は、結果的には世帯属性別の各品目のウエイトの差、すなわち、世帯属性別の消費構造の相違に起因するものとなっている。各世帯属性別のウエイトは、付録4(510, 511ページ)に示すとおりである。

品目特性別指数は、日常生活における購入頻度の高いもの・低いものなど支出項目間での物価変動の差をみるため、また、これらの項目別の物価変動が所得階級別にどのような影響を及ぼすかをみるため、各品目を購入頻度や支出弾力性の値の大きさ(値が1以上のものが選択的支出項目、1未満のものが基礎的支出項目)に基づいて区分し、作成している。各品目についての、基礎的・選択的支出の別及び購入頻度階級については、付録1(481～503ページ)に示すとおりである。

世帯属性別指数及び品目特性別指数は422～445ページに掲載している。